

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

患者様又は患者様の代理の方が、この研究のために試料・情報が使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌における TSST-1 産生制御機構の解明
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	瀧雄介
研究期間	2017年3月から2021年3月
対象者	2000年4月から2021年3月までに当院で診断した毒素性ショック症候群患者様のうち、菌株が保存されている方
当該研究の意義・目的	<p>【背景】</p> <p>毒素性ショック症候群（Toxic shock syndrome：以下 TSS）は、発熱、びまん性斑状紅皮症、落屑、低血圧、多臓器不全などを主症状とする症候群で、黄色ブドウ球菌が産生する TSST-1 などの毒素により発症する重篤な疾患です。</p> <p>MRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）株の多くは TSST-1 遺伝子（<i>tst</i>）を有していますが、TSS を引き起こす方は限られており、TSST-1 の産生量によりその病原性が異なると考えられています。しかし、TSST-1 の誘導機構はまだ未解明な点が多くあります。</p> <p>【目的】</p> <p>TSST-1 の誘導産生に関与する細菌の機構を明らかにし、TSS を引き起こし重症化する細菌因子と環境因子を解明します。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	<p>対象となる患者様の診療録（カルテ）から次の情報を調査します。</p> <ul style="list-style-type: none">・背景因子（年齢、性別など）、・臨床データ（画像検査結果、病理検査結果など）・転帰（再発の有無など） <p>また、対象患者様から得られた細菌検体を共同研究機関である自治医科大学に送付し、細菌の遺伝学的な検索を行います。細菌検体を送付する際には、患者様を直ちに判別できる情報は提供致しません。</p>
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。

資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
問合せ先	◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立総合病院　消化器外科　瀧雄介 代表 054-247-6111